

Q: 学校運営協議会とは、何をすることをの？

A: 法律に基づき教育委員会により任命された委員が、一定の権限を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関のことです。学校運営協議会の委員は、校長が選出し、教育委員会が任命をします。コミュニティ協議会の委員、保護者、多様な地域の方々、専門家などで構成される予定です。

法律で定められた「学校運営協議会」の主な3つの役割(地教行法第47条)

- 1 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
- 2 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることが出来る
- 3 教職員の任用について、教育委員会発付で定める事項について、教育委員会に意見を述べることが出来る

Q: 今まで行っていた学校支援活動はどうなるの？

A: 職場体験学習の受け入れや目下学校の見守りなどの学校支援活動は、従来通りご協力をお願いします。今後は、学校支援だけでなく、学校や子どもたちに関わることで、地域の活性化につながるように、「地域学校協働本部」を学校ごとに、あるいは中学校区ごとに設置していきます。学校運営協議会で検討した内容を地域の方やボランティアさんに発信・共有します。今まで以上に子どもたちの活動を充実させたり、学校と地域で協働した活動が進むように、さらなるご協力をお願いします。

Q: どうやったら聞かれるの？

A: コミュニティ・スクールに向けた説明会を下記の通り開催します。ぜひお気軽にご参加いただき、地域の皆様との貴重な意見や思いをお聞かせください。

誰でも参加可能です。コミュニティ・スクールとは何か？どんな子どもたちを育みたいのか？みんなで対話しながら考えましょう！

8月より各地域でコミュニティ・スクールに関する地域向け説明会・研修会を開催します

コミュニティ・スクール 地域向け説明会・研修会 日程一覧

申し込みは必要ありません。当日、直接、会場にお越しください。

●時間 18:30 - 20:30

1 回目				
月日	曜	地区	会場	
8月30日	月	瀬之谷地区 堀之内地区	瀬之谷小学校 堀之内中学校	
8月31日	火	広神地区 小出地区	広神中学校 小出中学校	
9月7日	火	入広瀬地区 守門地区	入広瀬小学校 須原小学校	

1 回目 こんなことをします！

- コミュニティ・スクールの仕組みや事例の紹介
- 地域がコミュニティ・スクールに関わる意味を考えよう

●時間 18:30 - 20:30

2 回目				
月日	曜	地区	会場	
9月30日	木	広神地区 瀬之谷地区	広神中学校 瀬之谷小学校	
10月5日	火	守門地区 小出地区	魚沼北中学校 小出中学校	
10月12日	火	入広瀬地区 堀之内地区	入広瀬小学校 堀之内中学校	

2 回目 こんなことをします！

- コミュニティ・スクールによる夢をワイワイ語ろう
- 子どもたちの未来に向けて、どんな役割が抱えるのか考えよう

コミュニティ・スクールモデル校の魚沼市立小出小学校の取り組み

魚沼市立小出小学校では、コミュニティ・スクールを通して、3つのビジョンを目指しています。

地域全体を「学校」ととらえる「大きな学校」

地域の人が全員が「先輩」「先生」であり、子どもを育む「子どもサポーター」

まち全体が元気になる「活力ある小出」

それに向けて

※保護者、児童アンケートと学校評議員会、地域教育懇話会の話し合いをもとに、学校・家庭・地域で目指す子ども像(共通目標)を設定しています。



新設した地域調停による人形劇クラブ。

2022年度より

魚沼市の全小中学校が
コミュニティ・スクールになります

コミュニティ・スクール(CS)は、学校運営協議会制度を導入している学校のことです。学校運営に地域の方に参画していただき、地域と一体となって特色のある学校づくりを進めていきます。また、地域と協働することで、学校を核とした地域づくりも目指します。

どうして導入するのかな？

導入の背景

〈教育環境の変化〉

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題が複雑化・多様化・教員の多忙化

例：登下校の防犯、家庭環境の多様化等

〈地域・社会の変化〉

少子高齢化の進行により、担い手が不足している地域社会のつながりや支え合いが希薄になっている

次代の魚沼市を担う子どもたちを育むために、学校と地域が力を合わせて「学校づくり」「地域づくり」を進めていくことが求められます。

コミュニティ・スクールは、新しい活動をほじめるわけじゃないよ。

そこで、コミュニティスクールが 目指すことは…
今までの活動を以下の視点から、意味づけ、見直し、発展させていきます。

持続可能性

校長や教員が負担しても、学校と地域の協働が継続できる組織的な仕組みです。

役割分担

学校や地域が抱える課題に対して関係者が当事者意識をもち、役割を分担します。

協働活動

地域でどのような子どもを育てていくのか、目標やねらいを共有して、活動に取り組みます。

そのために、学校運営協議会ではこんなことをするよ！

学校と地域がどんな子どもたちを育みたいのか、そのためにどんな教育活動や協働活動が必要かを検討します。また、子どもを取り巻く課題を共有し、解決する方法やアイデアを学校と地域がワイワイ一緒に考えます。

ある市町村のある学校の例

- ①どんな子どもを育てたいのか？ 20年後の地域の姿についてグループ討議
- ②学校と地域が協働した活動洗い出し、整理したり、やめたり、改善することを検討
- ③育てたい生徒像を整理し、教育目標に反映
- ④地域の良さや課題、望まれる未来の地域を子どもも交えて意見交換
- ⑤子どもたちが地域のためにやってみたいことを発表し、子どもと地域が一緒にできそうなことを検討
- ⑥具体的な学校行事・地域行事を見直し、協働で実施

子どもも参加するんだね。なんだ分業しちゃう？

地域の組織大会の参加者数が年々減っていたので、学校の体育で組織を地域の方に広げてもらうように、地域の組織大会の参加者数が増え、学校は特色のある教育活動ができるようになったんだって。

夏休みに明けに不登校になる子どもが多いと聞かされた学校。保護者は夏休みの宿題の丸つけに苦労していたので、地域づくり団体が夏休みの後半に夏休み宿題講座を開講。すると、夏休み明けも全員が宿題をちゃんと仕上げ、元気な登校できたんだよ。